

盆も過ぎ、やっとしのぎ易くなるのかなと思ったらまだまだ暑い日が続きます。涼しくなるまでもう一息です。夏バテにならずにがんばりましょう。

さて、病院の使命として「公共性」、「永続性」、「非営利性」という三つの原則があります。今回は主に、公共性と永続性についてお話したいと思います。病院の経営、運営がうまく行かないからと、簡単には止めるわけには行かないのです。

当院は平成十五年に開院しました。二十四時間いつでも対応の急性期病院として、開院前から地元救急隊や地域の住民の方と多数と対面し(本当にたくさんの方とお会いしました。約千五百名!)、たくさん要望やご意見をいただきました。首長の方とも面談し、意見交換を行いました。地域にある病院に、一刻を争う救急患者さんを一秒でも早く搬入し、適切に診断、治療する。言うが易し、実際は、職員一丸となり、苦心苦勞して患者さんの為にと日々努力しています。す。

職員も人間ですから、風邪も引きますし、体調が悪い時もあります。でも患者さんが待っていますから少々のごときは休まず、病院に出てきます。汗をかいて仕事をこなしていれば体調も戻ってきます(本当にきつい時にはもちろん休みますが)。患者さんが治療の甲斐なく、亡くなられると、やはりショックです。落ち込みますし、色々なことをいつまでも引きずったり、やめたくなったりもします。しかし長く迷う余裕も無く、次の患者さんが来られます。一生懸命やっていたら、良いことも有ります。助けようもないと思われた超重症の患者さんが元気になって歩いて帰ってくればこんな励みになることはありません。嬉しい時は皆でお祝いに行きます。「みんなよく頑張ったね!患者さん良くなって本当に良かったね!」って。こうやって積み重ねることで良い医療人が育ちます。人の痛み、苦しみ、希望、境遇などを患者さんや家族の方と共有することで、人間としての深みが出ます。

病院の使命としての「公共性」、「永続性」の話に戻ります。もうお分かりですね。病院とは職員ひとりひとりの個性、感情の集合体であり、それが「患者さんの生命」という一番大切な財産を守るために一生懸命努力することで「公共性」、「永続性」は維持されるのです。早く涼しくならないかな。そしたら私も夏休みを取ります? 第二十三章。

